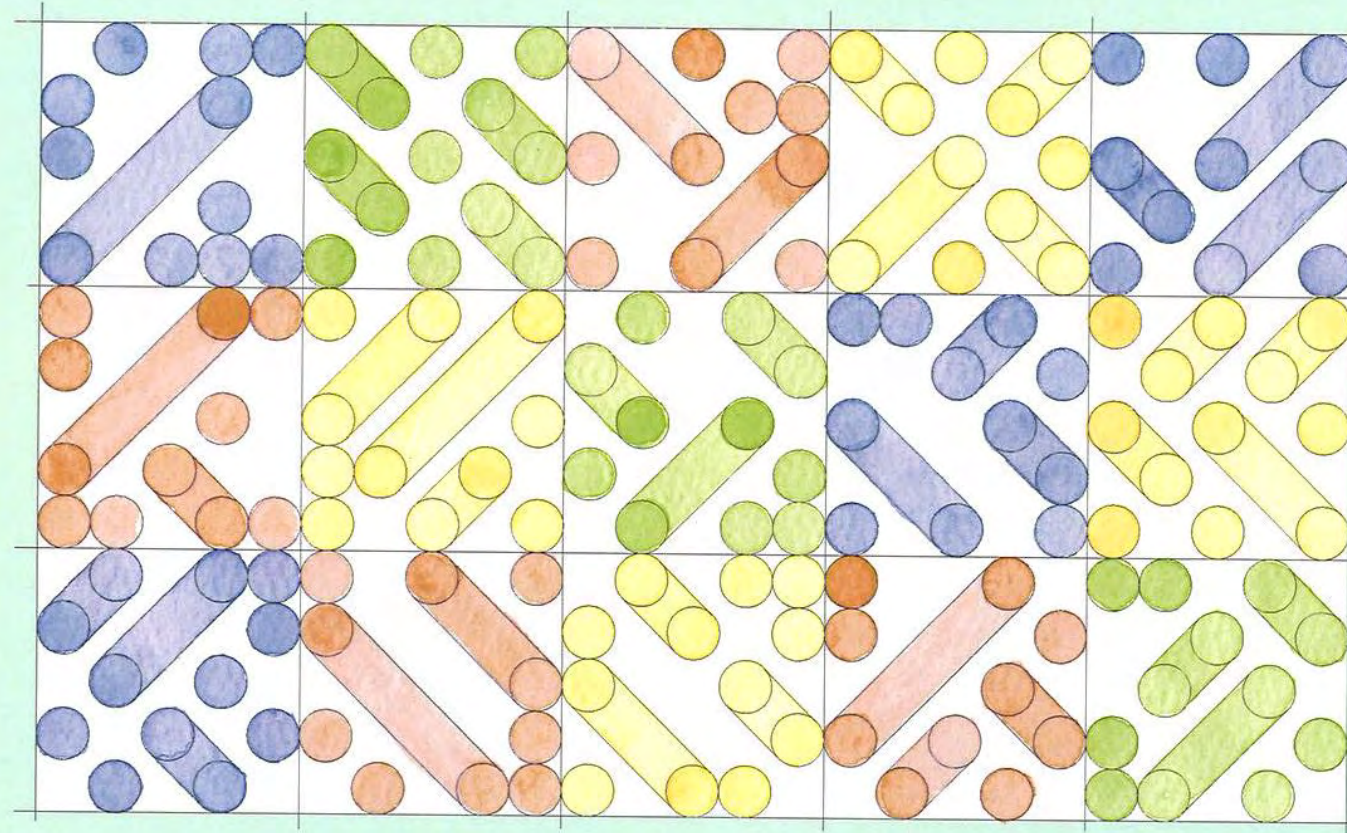


平成 28 年度
文部科学省科学技術人材育成費補助事業
「女性研究者研究活動支援事業」(一般型)
事業報告書



目次

I センター長挨拶	1
II 名古屋工業大学の男女共同参画	2
男女共同参画宣言基本方針	2
組織図	3
構成員	4
III 事業報告	5
名古屋工業大学の女性の目標と現状	5
平成 28 年度活動報告一覧	6
4 つのミッションとその主な取組	
ミッション 1 女性研究者支援	9
・研究支援員制度	
・英語論文校正支援制度	
・英語論文の書き方セミナー開催	
・ライフイベント支援	
ミッション 2 問題発見・解決	19
・ワークライフバランス相談室の開設	
・男女共同参画推進に関するアンケート調査実施	
・出産・育児支援制度セミナー開催	
・介護と仕事の両立に関する説明会開催	
ミッション 3 女性研究者コミュニティ形成支援	23
・交流サロン i-café	
・女性研究者・技術者の会	
・名工大女子学生団体 彩綾～SAYA～	
ミッション 4 企画広報・裾野拡大	26
<セミナー・シンポジウム>	
・男女共同参画推進トップセミナー開催	
・女性研究者研究活動支援事業（一般型）最終報告シンポジウム開催	
・ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾開催	
<表彰・創設・認証等>	
・「女性が拓く工学の未来賞」表彰	
・メンター制度創設	
・OG 同窓会「鶴桜会」創設	
・「あいち女性輝きカンパニー」認証	
<イベント>	
・トヨタ女性技術者育成基金奨学給付制度個別相談会開催	
・理工系の魅力発信デー	
・女性技術者交流会開催	
・図書貸し出し	
<広報>	
・研究者ロールモデル集発行	
・ニューズレター発行	
・ウェブサイト	
・文教ニュースへの掲載	
女性研究者研究活動支援事業 自己点検・評価報告	35

I センター長挨拶



男女共同参画推進センター センター長

藤岡 伸子

工学は人間の幸福な生活に奉仕する技術の研究・開発を使命として、私たちの暮らしを便利で快適なものにし、多くの夢を実現してきました。しかし近年、人々の求める理想的な暮らしの姿がずいぶん変わり、数値化しにくい多種多様な質的価値が幸せの要件としてますます強く意識されるようになっていきます。

ものづくりで人に奉仕する工学も新たな価値に寄り添うように、より繊細で柔軟なそして感性的なものへと自ら変わっていく必要があります。これまで少数派であった女性の感性や視点を取り込んで行くことが工学の未来を切り開く上で重要であるという認識が急速に広がっています。

こうした状況の中、名古屋工業大学は文部科学省の平成 26 年度科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」に採択され、「男女共同参画推進センター」を発足させました。工学系は理系の中でも最も女性研究者の割合が少なく、新しい時代の工学を担うべき女性研究者を増加させその活躍を支援することが今強く求められています。少数派で孤立しがちな女性研究者が居心地よく感じ安心して研究に邁進できる環境づくりが、名古屋工業大学男女共同参画推進センターの重要な仕事です。

平成 28 年度の報告として「平成 28 年度 文部科学省科学技術人材育成費補助事業（一般型）報告書」を作成いたしました。3 年間の事業期間のうちの最終年度になりますが、昨年度以上に、女性研究者の研究業績向上に向けた取組を中心に活動してきました。研究支援員制度の利用者枠の拡大、科学英語論文セミナーの複数回開催等です。また、企業や行政機関（県、市町村）からも理工系女性研究者に対するロールモデルの依頼が、徐々にくるようになり、女性研究者支援の裾野が少しずつ拡大していきました。補助事業終了後である来年度は、女性研究者支援の取組をさらに発展させる形で事業を継続していきます。

平成 29 年 3 月 名古屋工業大学男女共同参画推進センター長 藤岡伸子

II 名古屋工業大学の男女共同参画

名古屋工業大学男女共同参画宣言

名古屋工業大学は、「ものづくり ひとづくり 未来づくり」という教育理念を目標に掲げ、グローバルに活躍する「実践的工学エリートの養成」を目指しています。あらゆる多様性が重視される今、この目標を達成するためには、工学の世界で長らく少数派であった女性研究者・技術者が、性別に関わりなく個性と能力を発揮できるような環境の整備と意識の変革が不可欠です。

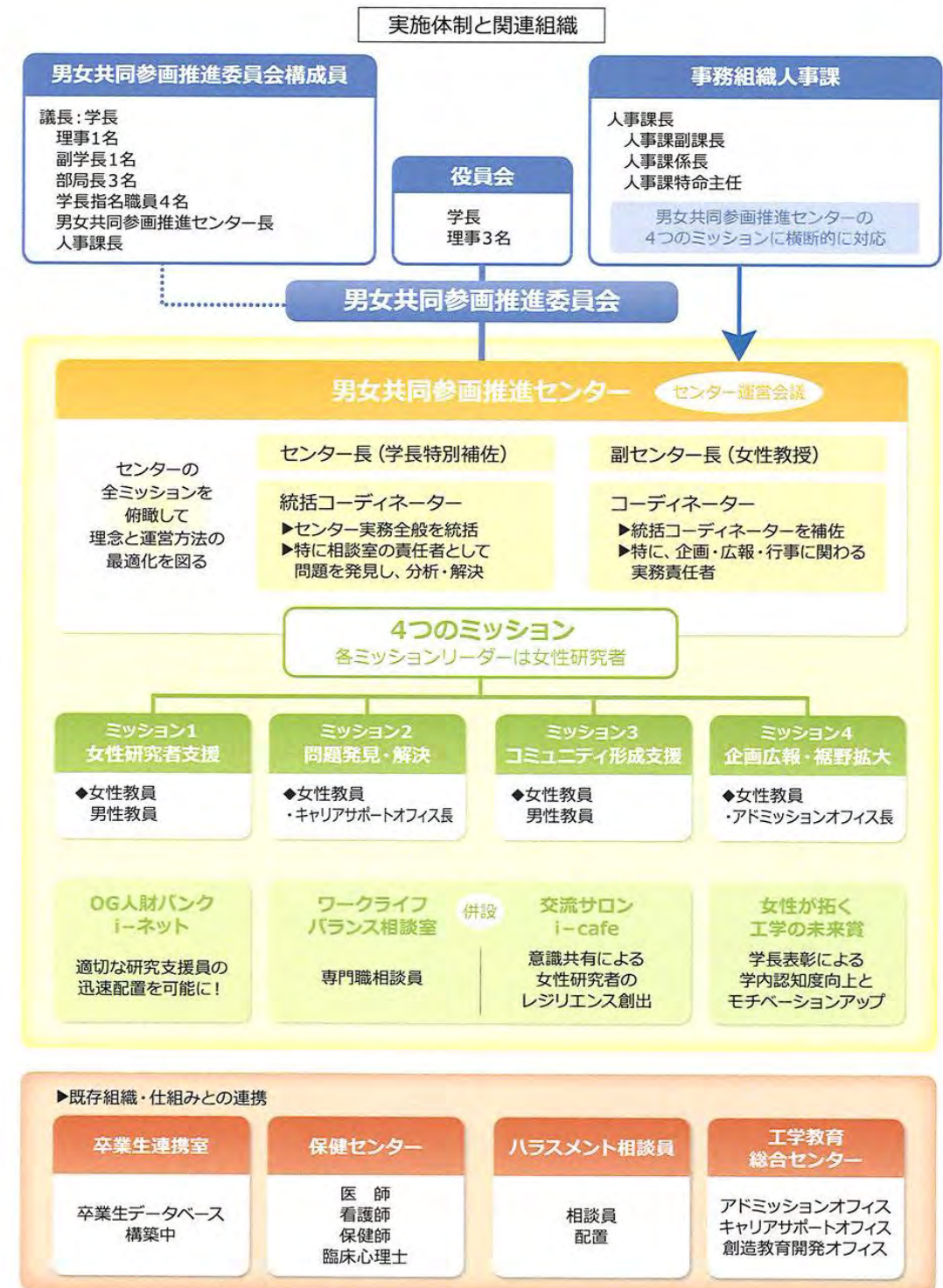
本学では、平成21年1月に学長直属の組織として「男女共同参画推進室」を設置し、取り組みを開始しました。また、平成26年度には、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」の採択を受けて、従来の施策の大幅な拡充と女性研究者の研究環境整備の加速を図るため、教職一体組織の「男女共同参画推進センター」を発足させました。実施体制が整った現在、本学は、ダイバーシティの推進が工学の活性化とイノベーション創出の鍵であるという明確な認識の下、より多くの優れた女性技術者を産業界へ送り出すこと、そして、より多くの女性研究者を工学コミュニティの重要な一員として招き入れ、その活動を弛まず支援することを重要課題と位置付けています。

この理念・目標を踏まえ、名古屋工業大学は、男女共同参画社会の実現に貢献するため、以下の基本方針を掲げて積極的に活動することを宣言いたします。

◆基本方針

1. ポジティブアクションとして、女性限定公募等を通じた女性研究者の増加を図るとともに、女性教職員の上位職への積極的登用を進める
2. 女子学生比率を向上させ、優秀な女性技術者を育成する
3. 男女共同参画の視点に立った教育・研究環境の整備を行う
4. 男女共同参画を促進する労働環境の整備を行う
5. 男女共同参画に関する啓発活動を積極的に実施する

◆組織図



男女共同参画推進センター構成員

所 属	役 職	氏 名
男女共同参画推進委員会	委員長・学長	鶴飼 裕之
キャリアサポートオフィス	オフィス長 教授	山下 啓司
アドミッションオフィス	オフィス長 教授	高木 繁
卒業生連携室	室 長 教授	仁科 健
男女共同参画推進センター	センター長 教授	中野 功
	センター長 教授	藤岡 伸子
	副センター長 教授	石川 有香
	副センター長 教授	増田 理子
	協力教員 准教授	小幡亜希子
	協力教員 准教授	武藤 敦子
	協力教員 助 教	孫 晶
	協力教員 准教授	徳丸 宜徳
	協力教員 准教授	坂口 正道
	統括コーディネーター	乙部 由子
	コーディネーター	小笠原陽子
	ワークライフバランス相談員	菊池美由紀
	スタッフ	内山 晃子
人事課	課長	鎌澤 幸彦
	副課長	佐久間道生
	係長	岩瀬美津子
	特命主任	大埜 生雄

平成 28 年 9 月 1 日現在

Ⅲ 事業報告

名古屋工業大学の女性の目標と現状

◆名古屋工業大学の目標

- ・女性研究者在職比率向上
8.0%（平成 25 年 5 月現在）→ 10.3%（平成 28 年度末）
- ・対策
 - ・女性限定公募の実施
 - ・新規常勤教員採用の女性比率 20%
 - ・事業期間内に 2 名程度の女性特任教員を企業より招聘

◆名古屋工業大学の女性の現状（平成28年5月1日現在）

女性役員比率		16.7%		
女性教員比率		6.2%		
女子学生比率		15.9%		
教 授	5.1%	学 部	15.9%	
准 教 授	6.3%	全学科	博士前期	12.7%
助 教	7.9%	博士後期	16.3%	
合計	6.2%			

◆事業終了後の目標

- 事業終了後
 - ・平成 29 年度末の女性研究者在職比率 10.7%
 - 事業開始から 4 年以内に 9 名の女性研究者を採用（85% 以上を理工系）
- 平成 36 年に女性研究者在職比率 15% を達成



平成28年度活動報告一覧

4月1日	研究支援員配置 6名
4月21日	平成28年度トヨタ女性技術者育成基金奨学給付制度個人相談会開催 参加者約60名
6月3日	ニューズレター vol.5発行
5月18日	男女共同参画トップセミナー「女性研究者支援と大学の活性化」を開催 学長、副学長、理事等17名が参加
6月1日	第1回出産・育児支援制度説明会を開催 人事課と共催 参加者11名 一時保育サービス利用者 1名
6月8日	第1回介護と仕事の両立に関する説明会開催 参加者10名
6月10日	第1回女性研究者・技術者の会ランチミーティング開催 参加者13名 (含学長、理事)
6月18日	オープンキャンパス 相談コーナーに参加 女子高校生保護者約25名来場
6月22日	第2回介護と仕事の両立に関する説明会開催 参加者17名
6月23日 ～29日	男女共同参画週間にあわせ、関連図書の展示 (名工大附属図書館)
7月12日	第1回「ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾」入塾式 開催 (受講生 17企業19名)
7月26日	第2回「ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾」開催
7月29日	女性研究者メンター制度実施要項制定
7月29日	第1回科学英語論文セミナー開催 講師 理化学研究所客員主管研究員 小野義正氏 参加者54名
7月30日	一宮市「女子中高生のための理系進学応援セミナー」にて講義
8月4日	オープンキャンパス 相談コーナーに参加 女子高校生保護者約20名来場
8月9日	第3回「ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾」開催
8月11日	豊田市、名古屋工業大学共催イベント「理工系の魅力発信デー with彩綾」 開催 (於：豊田市産業文化センター)
8月12日	「理系女子が進路相談」と題して イベント「理工系の魅力発信デー with彩綾」について中日新聞に掲載

8月30日	第4回「ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾」開催
8月31日	ニューズレター vol.6発行
9月13日	第5回「ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾」開催
9月27日	第6回「ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾」開催
10月11日	第7回「ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾」開催
10月15日	女子学生のためのテクノフェスタ 参加
10月25日	第8回「ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾」卒塾式 開催 4号館1階ホール (参加者 卒塾式60名、特別講演会127名、情 報交換会46名)
10月26日	女性が拓く工学の未来賞表彰式
10月28日	平成26年度採択女性研究者研究活動支援事業 (一般型) 自己点検・評 価報告 開催
11月3日	ホームカミングデーに名工OG会「鶴桜会」開催 参加者約50名
11月6日	愛知県主催「女子のための理系☆きっかけフェスタ」参加
11月9日	女性研究者研究活動支援事業 (一般型) 最終報告シンポジウム「工学 研究におけるダイバーシティ環境実現に向けて」を開催 参加者116名 (うち一般6名)
11月11日 ～25日	女性に対する暴力をなくす運動実施週間に合わせ関連図書の展示 (名工大附属図書館)
11月12日	「国立大増やそう女性教員」と題してOG人材バンクについて朝日新聞に 掲載
11月12日	オープンキャンパス 相談コーナーに参加 女子高校生保護者約10名 来場
11月15日	第2回女性研究者・技術者の会ランチミーティング開催 参加者14名 (含学長、理事)
11月18日	第2回科学英語論文セミナー開催 講師 理化学研究所客員主管研究員 小野義正氏 参加者20名
11月24日	株式会社イコニコ・カンパニーと病児・病後児保育業務契約締結
12月1日	研究支援員配置 3名

12月3日	国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業「自然と科学が拓く地域の未来、あなたの未来」に参加（於：高山市民会館）参加者30名
12月6日	「育て！リケジョの星」と題して名工大の支援策について日本経済新聞に掲載
1月4日	研究支援員配置 1名
12月19日	ニューズレター vol.7発行
1月13日	第3回科学英語論文セミナー開催 講師 理化学研究所客員主管研究員 小野義正氏 参加者19名
1月14日	大学入試センター試験に係る教職員のための一時保育実施 利用者 1名
1月15日	大学入試センター試験に係る教職員のための一時保育実施 利用者 3名
1月23日 ～ 2月28日	男女共同参画推進に関するアンケート調査実施
1月20日	「女性技術者交流会」開催 彩綾と共催 参加者約80名
1月25日	第2回出産・育児支援セミナー開催 参加者14名
2月25日	個別学力検査に係る教職員のための一時保育実施 利用者 1名
2月26日	個別学力検査に係る教職員のための一時保育実施 利用者 1名
3月14日	第3回女性研究者・技術者の会ランチミーティング開催 参加者13名

4つのミッションとその主な取組



ミッション1 女性研究者支援

研究支援員制度

男女を問わず、出産、育児、介護もしくは看護、それ以外の生活上の理由のために十分な研究時間が確保できない教員等に配置することで生活と研究業務の両立が図れるように支援していくものです。

◇利用対象者

以下のいずれかの要件を満たす人になります。

- ・妊娠中の者又は産後休暇を承認された者
- ・育児休業等を取得している者
- ・中学校就学の始期に達するまでの子（配偶者の子を含む。）を主として養育する者
- ・介護休業等を取得している者
- ・介護保険法で規定する要支援者または要介護者がいる者
- ・家族のうち看護を必要とする者を主として看護する者
- ・女性の教員等（教授を除く）で、生活上の理由により特に研究業務の支援を必要とする者

研究支援員の身分は、パートタイマーとし、研究支援員として雇用できるのは、本学の大学院に在籍する学生、本学の卒業生です。「学生研究支援員」の勤務時間は、1週間あたり19時間以内、「卒業生研究支援員」の勤務時間は、1週間あたり30時間以内です

平成28年度利用者数……………10名（女性5名・男性5名）

◇制度を利用して

名古屋工業大学助教
磯部雅晴さん

妻は大学教員で大阪まで通勤しており、学期期間中は息子（4歳児）の保育園送迎 & 家事育児の大半は私が行っています。教育・業務活動は保育園の開園時間のみで妻の大学は休日出勤が頻繁に入るため、研究時間の確保と時間の最適化が課題でした。センターの方より男性教員でも妻が大学の研究者であれば「研究支援員制度」が利用可能であることを知りました。研究室所属の市川さんに研究支援員として1月より活動していただいています。女性の社会進出や地位向上に向け、このような支援員制度の活



動を通して、女性技術者に必要なスキルアップや学習意欲の向上などへも貢献できればと期待しています。

◇研究支援員の声

名古屋工業大学機械工学科計測系プログラム
市川宏子さん

磯部先生のご家庭では、奥様が大阪まで通勤しているため、息子さんを保育園にお迎えに行くため先生は18時までしか研究することが出来ません。自分のスキルアップも兼ねて研究支援員をしてみないか、と声をかけていただきました。最初は、研究支援員なんて自分にできるのか不安に思っていました。わからないことがあれば丁寧に教えていただき、作業を進めていくたびに着々と自分の力になっているのを感じます。この1歩1歩が将来の自分のためと



なり、微力ながら女性の社会進出へ少しでも貢献になればと思います。まだまだわからないことばかりで、先生にご迷惑をかけることもあるかと思いますが、今後とも頑張っていきたいと思っています。

研究支援員に「OG人財バンク」の活用

本学の女性研究者支援の一環として、ライフイベント等で社会の第一線から退いている本学OGを女性研究者の支援をする研究支援員として起用し、彼女たちが本学で培った専門性を活かした高度な支援を実現できる仕組みです。

女性研究者支援であると同時に、本学OGに再チャレンジの機会を提供する試みでもあります。

一例として、今年度まで約2年間研究支援員として勤め、来年度から正社員として新天地で活躍が期待されるOGもいます。

今後は広く名工大OGの情報を蓄積し、第一線で活躍する人も、ライフイベントとの両立に困難を感じている人も、それぞれにメリットが感じられるような女性技術者・研究者のコミュニティ構築につなげたいと考えています。

◇OG人財バンクの事業内容

工学系女性人財ニーズに応える人財データベースとしての活用
学内外からの人財情報提供要請に応える窓口となります。

◇OG間の情報交換

インターネットを介したタイムリーな情報流通を促進します。

◇多様な交流機会の創出

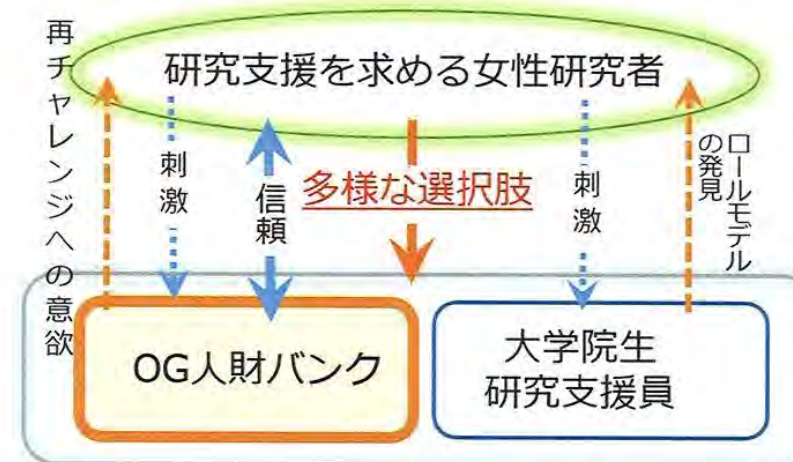
インターネット上のコミュニケーションだけでなく、イベントや懇談会を通したリアルな交流の場を提供します。

◇活用事例（平成28年度）

研究支援員 5名

特任教員 2名

●「OG人財バンク」の構築による支援員制度の拡充



◇利用方法

女性卒業生の皆様を対象に、登録窓口を設け登録をお願いしています。

<http://www.nitech.ac.jp/gender/network/>

◇登録手順

- ・卒業時
ポータルにログイン後、統一データベース>進路情報の表示・編集>活動支援>OG人財バンク登録
- ・既卒者(OG)
HPのOG人財バンク登録画面に登録事項を記入し送信

英語論文校正支援制度

出産、育児、介護等のために十分な時間が確保できない教員等が英語論文の校正を委託する際にかかる経費を支援することにより、教員等の生活と研究業務の両立が図れるように支援する制度です。

◇利用対象者

以下のいずれかの要件を満たす人になります。

- ・妊娠中の者又は産後休暇を承認された者
- ・育児休業等を取得している者
- ・中学校就学の始期に達するまでの子（配偶者の子を含む。）を主として養育する者
- ・介護休業等を取得している者
- ・介護保険法で規定する要支援者または要介護者がいる者
- ・家族のうち看護を必要とする者を主として看護する者
- ・女性の教員等（教授を除く）で、生活上の理由により特に研究業務の支援を必要とする者

一件につき上限を3万円とし、1名につき年間3件までとします。
ただし、予算等の条件により、支援内容が制限される場合があります。

平成28年度利用者数……………5件3名（女性2名・男性1名）

英語論文の書き方セミナー開催

研究業績向上支援の一環として女性研究者などを対象に、3回の英語論文セミナーを開催しました。

第1回 科学英語論文の書き方セミナー 平成28年7月29日

小野義正先生（理化学研究所客員主管研究員）による科学英語論文書き方セミナーを開催しました。教職員10名、学生44名が参加しました。

講義は、第1講義の「英語口頭発表の基礎と準備」、第2講義の「口頭発表の実践ポイント1」、第3講義「英語口頭発表の実践ポイント2」の三部構成でした。英語による口頭発表の心構えやテクニック、講演（口頭発表）と論文（印刷発表）の違いなど、これから英語によるプレゼンテーションをする人にもわかりやすい内容から、決まり文句や図表などの説明の仕方、発音方法など、口頭発表終了後の質疑応答の対応の仕方やポスターセッションの際の発表のテクニックなど、実践に役立つ内容まで網羅されていました。参加者からは、「英語だけでなく、日本語のプレゼンテーションにも役立つ考え方が学べた」「実際の発表で使える表現が学べてよかった」「論文で使用する英語と口頭発表で使用する英語の違いを知ることができた」等の前向きな意見が多数ありました。



理化学研究所客員主管研究員
小野義正氏

セミナーの様子

第2回 科学英語論文の書き方セミナー 平成28年11月8日

『「ポイントで学ぶ」科学英語論文の書き方』と題して、小野義正先生(理化学研究所客員主管研究員)による第2回科学英語論文書き方セミナーを開催しました。女性6名を含む20名が参加しました。

第1講義では前置き「英語論文を書く意義」に続いて「英語の発想法と論文執筆の鉄則」、第2講義では「英語論文の書き方」の二部構成でした。

- ・研究の本質的・最終目的である「公表」のため、英語による論文の執筆は不可欠であること
- ・上手に英語論文を書くには練習によりスキルを磨かなければならないこと
- ・科学・技術英語論文の特徴について、日本語的発想を脱し英語で発想した英語による文章の作成をすべきであることと、その際の注意点や簡潔な英語文章のテクニックなどについて講義して頂きました。タイトル、著者と所属の書き方、著者抄録、序論、本論、結論、考察、謝辞、参考文献図表の書き方テクニックなど、実践に役立つ内容を教えていただきました。参加者からは、「英語と日本語の発想の違いや文章構造の違いもよくわかりました。」「現在執筆中の論文の参考になった。」「論文執筆の手順が具体的によくわかった。」等のわかりやすく、幅広い知見を得られたと前向きな意見が多数ありました。



理化学研究所客員主管研究員
小野義正氏



セミナーの様子

第3回 科学英語論文の書き方セミナー 平成29年1月13日

小野義正先生(理化学研究所客員主管研究員)による第3回科学英語論文書き方セミナーを開催しました。19名が参加しました。

第1講義の「明確な英語論文を書くテクニック(作文技術)」では、論文の書き方や数字表記のつけ方などの具体的な解説や、論文では、科学論文の内容で記載されていて、細かい記法を多くの例でまとめられており、とてもよくわかりやすい内容でした。

第2講義の「英文を書くときに心得ておくべき文法的事項」では、時制・前置詞の説明、冠詞の使い方、論文投稿時の対応の仕方など細かい説明があり、具体例も多く、とても実用的な内容でした。

参加者からは、「今後のために活用できそう」「普段気づかない部分や知らなかったことがわかり、大変参考になった」「複数の単語を一つにまとめて書く方法を学べて、相手に伝わりやすい文章が書けると思った」「今後も開催してほしい」等の意見が挙がりました。



セミナーの様子

ライフイベント支援

1. ベビーシッター利用の補助制度

昨年度、名古屋工業大学ベビーシッター育児支援実施要項を制定し、本学教職員、学生が育児と仕事や勉学、研究活動を両立していくために十分な時間が確保できるよう支援しています。

次の2種類の支援を行っています。

〈内閣府のベビーシッター派遣事業の割引券利用〉

当制度は公益社団法人全国保育サービス協会が発行する「ベビーシッター派遣事業」の割引券を利用して実施するものです。

◇割引の内容

サービス利用時に割引券を提示することで、1家庭につき1日(回)あたり2,200円の割引が受けられます。※利用料金が2,200円以下の場合には利用できません。

◇利用可能枚数

1日(回)につき1家庭1枚まで(1か月24枚、1年280枚まで)

◇利用対象者

本学に勤務する教職員(パートタイマーの方は、厚生年金の被保険者に限ります。)

◇利用対象となるこども

- ・乳幼児又は小学校3年生までの児童
- ・その他健全育成上の世話を必要とする小学校6年生までの児童

◇利用の条件

- 利用対象者がベビーシッターサービスを利用しないと就労継続することが困難な場合
- ・利用者の家庭内における保育や世話並びに家庭と保育所との送迎である場合
 - ・公益社団法人全国保育サービス協会が認定しているベビーシッター事業者に限る

平成28年度利用者 …… 3名 121枚

〈大学契約ベビーシッターサービス「千種シッターサービス」〉

本学独自の契約により本学の教職員及び学生が会員料金の利用で各種サービスを利用できます。

◇割引の内容

本学の教職員及び学生が会員料金で各種サービスを利用いただけます。(申請不要)

なお、下記対象に該当する方は、申請の上1家庭につき1日(回)あたり700円の補助が受けられます。

◇利用対象者

本学に勤務する教職員(パートタイマーの方は、厚生年金の被保険者に限ります。)

◇利用対象となるこども

- ・乳幼児又は小学校3年生までの児童
- ・その他健全育成上の世話を必要とする小学校6年生までの児童

◇利用可能サービス

ルーム利用

シッター派遣(※ベビーシッター育児支援事業割引券を利用することはできません)

平成28年度利用者 …… 5名



契約ベビーシッターサービス

ルーム利用する乳児

ルーム利用する幼児

2. 病児・病後児保育支援制度

本学教職員が養育する児童が病気にかかり、通常使用している保育施設等での保育が困難な場合に、一時的にベビーシッターサービスによる病児・病後児保育を受け、業務の遂行を可能とする支援制度です。

◇割引の内容

登録料の全額及び利用料金の半額は大学が負担します。

利用料金は下記のとおり

(利用時間) (料金：税抜き)

7：00～9：00 2,500円/時間

9：00～18：00 2,000円/時間

18：00～19：00 2,500円/時間

※前営業日の18：00以降の連絡は1,000円/時間の加算、市内通勤費加算850円/回等があります。

※最低利用時間は、2時間です。

◇利用対象者

本学教職員

◇利用対象となる子供

本学教職員が養育する小学校3年生までの児童

◇サービスの内容

*病児保育

病気にかかっているが、感染性の強い病気ではなく、当面の症状の急変が認められない場合等においての一時的な保育

*病後児保育

病気の回復期であるが、通常使用している保育施設等での保育が困難な場合等においての一時的な保育

平成28年度登録者 …… 5名

3. 一時保育サービス

セミナー、シンポジウム開催の際、また休日の大学入試業務等に係る教職員のため、一時保育サービスを行いました。

◇利用状況

平成28年度第1回出産・育児支援セミナー開催時 1名

第2回出産・育児支援セミナー開催時 2名

平成29年1月14日、15日に行われた大学入試センター試験 3名延べ4名

2月25日、26日の個別学力検査日 2名

ミッション2 問題発見・解決

ワークライフバランス相談室の開設

あらゆる悩みに対する相談・問題解決を担うワンストップ窓口を目指しています。専属の相談員が、研究とライフイベントの両立、子育てや人間関係など、あらゆる悩みのインテークを行い将来設計に関して、連携する保健センターやハラスメント相談員とも協力して迅速な問題解決を図ります。

男女共同参画推進に関するアンケート調査実施 平成29年1月23日～2月28日

平成29年1月に実施した男女共同参画推進に関するアンケート調査は、平成28年1月に行った「男女共同参画推進に関するアンケート2015」と同じ設問で行いました。平成28年の「アンケート2015」では117名が回答、平成29年の「アンケート2016」では295名と、前年の平成28年に比べ約2.5倍と大変多くの方に回答して頂きました。回答者の構成については両年とも、男性6割女性4割、年代や常勤非常勤の割合についても、全体的にまんべんなく増加しており、構成についてはほぼ変化はありませんでした。

認知度については、平成28年に比べて平成29年では、「女性活躍推進法」は37%から47%に増加し、両年とも「男女共同参画社会基本法」については70%前後、「育児・介護休業法」については80%前後、「男女雇用機会均等法」については96%程度、「ワークライフバランス」については85%と高い認知度で変化なく安定している。学内の規則制度では「育児休業・育児部分休業」については80%前後と最も認知度が高く、「子の看護・予防接種等の特別休暇」や「介護部分休業」について前年の30%前後から10ポイント以上増加し40%程度になりました。また、本センターの認知度は56%から96%にまで増えましたが、本学の「男女共同参画推進宣言」・「基本方針」や「女性技術者研究活動支援事業採択」については両年とも60%前後とあまり変わりませんでした。

本センターの取り組みについての「認知度」と「継続の期待」度については、「研究支援員の配置」や「OG人材バンク」、次いで「ベビーシッター派遣の補助」が、認知度も高く継続も期待されていることがわかりました。

「自身の考えの変化」については、「男女共同参画」、「仕事と生活の両立」、「働きやすい職場」、「本学の活性化のための女性の活躍推進」について考える機会が、「増えた」「やや増えた」を合わせるといずれも10ポイント程度増えました。

自由記述では、「学内保育」や「一時保育・病児保育」などの育児支援の要望や、介護についても何らかの支援を望む意見がありました。また男女共同参画という観点から、事務職や技術職、パートタイマー、男性教職員も「育児・介護休業制度」の利用しやすさを求めており、また、女性研究者の活躍促進するためには、当事者の女性研究者だけでなく、大学全体で「働き方改革」「働きやすい職場作り」「ワークライフバランス」等についての意識改革等の取り組みが求められるという意見がありました。これらのアンケート結果をふまえて、今後の活動に役立てたいと思います。

出産・育児支援制度セミナー開催

第1回 平成28年6月1日

i-café（11号館3階）にて平成28年度第1回出産・育児支援制度に関するセミナーを開催しました。11名（女性9名、男性3名）の参加があり、保育利用者は1名、ランチ会参加者は6名でした。人事課労務係より名古屋大における育児支援制度の説明の後、本センターワークライフバランス相談員の菊池が、「保育園に預けるということ」をテーマに、実際に保育園に子どもを預けている親の感じる不安や葛藤とそれに対する保育士からの意見やアドバイス等話をしました。

今回は、事務職員だけでなく教員や研究員、また、育児中の職員だけでなく出産を控えた職員の参加等もあり、様々な方の交流の場となりました。

ランチ会では、藤岡センター長も交えて積極的な意見交換がされました。



一時保育の様子



セミナーの様子

第2回 平成29年1月25日

i-caféにて、平成28年度第2回目の出産・育児支援セミナーを開催しました。計14名（女性9名、男性5名）の参加があり、保育利用者は2名、ランチ会参加者は5名でした。

藤岡センター長の挨拶では、自身も子どもを育てながら研究を続ける上で直面した困難、そして終わってしまえば良い経験だと思っているというお話がありました。続いて、本センターワークライフバランス相談員の菊池より、学内外、特に保育園、ファミリーサポートサービス、病児・病後時保育という学外の支援制度の概要と、母親として使ってみた感想や利用時の注意点についての話がありました。その後、学内の支援制度利用者のお二人から、利用している制度とその制度を選んだ理由、メリットデメリットについてのお話がありました。最後にけやきの木保育園、平松知子園長より「保育園ってどんなところ？」と題して、保育士の専門性、集団保育の持つ強み、保育園選びのポイントについてお話いただくと共に、保育園や子育てについて



けやきの木保育園 平松知子園長



セミナーの様子

自由に話し合える座談会を行いました。

今回は、子育て中の教員、研究員、各種制度利用中の事務職員、技術職員等の参加があり、様々な方の交流の場となりました。

ランチ会では、赤ちゃんを囲んで現在の職場の状況や家事のやり方、保育園での生活や子どもの習い事についてなど、職場ではなかなか出来ない育児期ならではの話題が活発に出されました。

介護と仕事の両立に関する説明会開催

第1回 平成28年6月8日

i-caféにて介護と仕事の両立に関する説明会を開催しました。名古屋市昭和区社会福祉協議会の事務局次長岡田敦氏をお迎えし、「親の介護と仕事の両立～慌てない、後悔しないための準備と心構え～」と題してご講演頂きました。介護の現状や、介護保険制度の概略、利用方法やサービス・介護にかかる費用等について具体的な事例を挙げてわかりやすく解説頂きました。

また、介護と仕事を両立するためには、一人で介護をかかえ込まずに家族や地域、職場の協力を得ることが肝心であり、介護のプロの力も借りながら、頑張りすぎないで親も自分も大切にしてほしいということでした。

今回は、介護未経験を多く含む、20代～60代まで幅広い年代の15名（女性9名男性6名）が参加し、とても好評でした。講演後のアンケートでは、介護について話しやすい職場環境を作るためにもこのような説明会を今後も開いて欲しい、また、もっと具体的な情報も欲しいという意見等がありました。



名古屋市昭和区社会福祉協議会
事務局次長 岡田敦氏



説明会の様子

第2回 平成28年6月22日

i-cafeにて第2回介護と仕事の両立に関する説明会を開催しました。

藤岡センター長の開会挨拶につづき、人事課 遠藤係長より、本学の介護休業、介護休暇、部分休業、早出遅出勤務、超過勤務時間制限、深夜勤務免除などの介護時に利用できる制度について説明がありました。つぎに、名古屋市昭和区西部いきいき支援センターのセンター長 鬼頭宏典氏をお迎えし、「認知症について理解しよう！～きょうからあなたも認知症サポーター～」と題して、ご講演頂きました。

認知症の現状や取組、認知症という病気について、また、認知症の家族の心理や認知症の方への対応の仕方など、名古屋市の認知症サポーター養成講座のテキスト・ビデオ等を用いて解説頂きました。認知症の中には、早期発見により改善や、進行を遅らせることができるケースもあるので、なるべく早くに認知症相談や専門医による診察を受けることが望ましい、認知症の方への対応には、①驚かせない②急がせない③自尊心を傷つけないということが大切とのことでした。

この認知症サポーター養成講座は、認知症になってもこれまでどおり、穏やかに安心して暮らすことができるように、認知症の方とその家族の方を応援し、支援する方を一人でも多く増やすためのものです。認知症について正しい理解を持つこと、認知症の方やその家族を温かい目で見守ること、そして自分たちの問題でもあるという認識を持つことを目的としている点で、これから介護を担う家族となるかもしれない教職員にとって、心強く有意義な内容でした。

今回の説明会には、20代～60代まで幅広い年代の17名（女性13名、男性4名）が参加し、養成講座のビデオを見てアンケートを提出した方には、オレンジリングが配られました。



説明会の様子



名古屋市昭和区西部いきいき支援センター
センター長 鬼頭宏典氏

ミッション3 女性研究者コミュニティ形成支援

交流サロンi-caféの設置

11号館3階（男女共同参画推進センター上階）にi-caféと称した交流サロンを設けています。本学の女性研究者が、各部署に分散して孤立した状況に陥りがちであることからこのような特別な空間を設け、研究者だけでなく、女子学生も含め女性同士の交流や相互の相談の場として利用をよびかけています。

説明会やセミナーの会場として、また女子学生団体～彩綾～の会合、ゼミなどでも利用いただいています。



i-café

女性研究者・技術者の会

女性のネットワークを作るだけでなく、研究・教育・学内事務・学会活動・社会活動・家庭とのバランスなど、日ごろ、個人的に抱えている問題を、会のメンバーで共有し、本学の女性研究者・技術者を取り巻く環境整備に取り組んでいきたいと考え、昨年度設立しました。

数少ない女性研究者、技術者が互いに交流を深め、横のつながりを強固にし、いざというときに互いに手を携え、助け合える関係性の構築を目指すことが本会の主旨です。

平成28年度第1回ランチミーティング 平成28年6月10日開催

i-cafeにて、今年度第1回目のランチミーティングを行いました。今回は、鶴飼裕之学長と内匠逸理事が参加し、女性研究者・技術者たちと懇談しました。初めに藤岡伸子センター長が開会の挨拶の後、石川有香副センター長が前回のアンケート結果と会員の紹介を行いました。今回からは、会員が輪番制で自身の研究を紹介することになりました。

会員の金先生、坂田さんがそれぞれの研究を紹介後、質疑応答の時間が設けられ、活発に質疑が行われました。その後、2つに分けられたテーブルで会食を楽しみながら、おのおの話（保育園、留学生のことなど）に花を咲かせていました。今後も定期的に行うことを約束し、閉会しました。



懇談の様子



研究紹介する金先生（左）と坂田さん（右）

平成28年度第2回ランチミーティング 平成28年11月15日開催

i-cafeにて、今年度2回目のランチミーティングが開催されました。

藤岡伸子センター長の開会挨拶の後、会員の孫助教が「経営工学への取組～生産・調達・マーケティングの研究紹介～」、藤原さんが「URA業務と研究紹介」について発表しました。その後、テーブルで会食を楽しみながら、それぞれの話（OG、家族のことなど）に花を咲かせ、招待者として参加した鶴飼裕之学長と内匠逸理事が、女性研究者・技術者の方たちと懇談しました。

次回は、今年度では最後の回として来年に行われることを約束し、閉会しました。



研究紹介する藤原さん（上）と孫助教（下）

平成28年度第3回ランチミーティング 平成29年3月14日開催

i-cafeにて、3回目のランチミーティングが開催されました。

石川有香副センター長の開会挨拶で始まり、藤岡伸子センター長の挨拶のあと、各参加者が自己紹介をしました。続いて、男女共同参画推進センターの乙部統括コーディネーターが、専門分野である「女性労働」について研究紹介をしました。参加者は、テーブルで会食を楽しみながら、それぞれの話（自身の研究及び業務内容、研究費のことなど）に花を咲かせ、懇談していました。

そして、来年度も引き続き行うことを約束し、閉会しました。



乙部統括コーディネーターの研究紹介



歓談する会員

名工大女子学生団体 彩綾～SAYA～

◇女子学生団体 彩綾～SAYA～ 2016年度の活動報告



【団体説明】

女子学生の少ない名工大で、“学科・学年を超えた繋がり”をつくり、学生生活や進路等の悩みを共有し解決することを目的とした団体です。また、企業と協働した女子学生のためのキャリアアップ支援活動も行っています。

【メンバー】

M2…2名 M1…1名 B4…3名 B3…6名 B2…5名 B1…10名

代表：亀岡真祐子

【活動内容】

- 4/14 新入生歓迎会
- 6/18 名工大オープンキャンパス
- 8/4 名工大オープンキャンパス
- 8/11 豊田市イベント 理工系の魅力発信デー
- 8/13 中部経済産業局「リケジヨの星」オークマ取材 & 記事作成
- 8/23 BOSCH ×リケチェン リコチャレイベント
- 9/16,17 彩綾夏合宿 SCREENホールディングス見学
- 10/29 オンダ製作所とのハロウィーンパーティー
- 11/3 名工大全学 OG会
- 11/5 DENSO イベント「夢卵」にスタッフとして参加
- 11/5 トヨタ女性技術者育成基金 名古屋女子大学高校への出張授業
- 11/12 名工大オープンキャンパス
- 12/13 中部経済産業局「リケジヨの星」ホーユー取材 & 記事作成
- 12/18 クリスマスパティー
- 1/20 女性技術者交流会
- 2/21 DENSO 工場見学
- 2/24 アイシン精機 工場見学バスツアー
- 2/27 BOSCH 理系女子セミナー
- 3/10 中部経済産業局「リケジヨの星」東海光学取材 & 記事作成
- 3/15 アスモ 工場見学 & グルメツアー

(その他)

- ・JS コーポレーション情報誌「名古屋工業大学キャリアガイド」に彩綾紹介ページが掲載されました。
- ・日本経済新聞より取材を受けました。(12/6 夕刊)



新入生歓迎会



夏合宿



オープンキャンパスで高校生の相談に乗るメンバー

セミナー・シンポジウム

男女共同参画推進トップセミナー「女性研究者支援と大学に活性化」開催

平成28年5月18日

女性研究者研究活動支援事業（一般型）に採択されて2回目となる男女共同参画トップセミナー「女性研究者支援と大学の活性化」を開催し、学長、理事をはじめとして各部局の代表からなる人事企画院委員等、約20名が参加しました。

鶴飼裕之学長の開会挨拶の後、文部科学省大臣官房人事課長の藤江陽子氏に「女性の活躍と大学の活性化」について講演いただき、女性活躍と女性研究者の現状を高等教育の観点から紹介いただきました。なかでも、理系分野や高等教育機関の上位職に女性の数が少ないことの指摘がありました。その後、女性の活躍推進にかかわる動向として、女性活躍推進法の施行、第4次男女共同参画基本計画と研究者関連政策（第5期科学技術基本計画など）、高等教育機関の男女共同参画推進に向けた文部科学省関係の支援策についての説明がありました。

続いて、国立研究開発法人科学技術振興機構プログラム主管の山村康子氏に「女性研究者支援事業の実績と今後の動向」について講演いただきました。日本における女性研究者の現状や女性研究者支援事業の実績を説明後、いくつかの取り組み事例の紹介がありました。最後に、数値目標の達成に向けて学長を中心に学内一丸となって取り組んでほしいと名古屋工業大学への期待が述べられました。

次に、男女共同参画推進センター 統括コーディネーター乙部由子が、平成28年度の女性研究者支援に向けた事業紹介と達成目標に向けた現状と課題を説明しました。

講演終了後は、単科大学の取組の好事例の紹介、産学官連携事業では女性のプロジェクトリーダーが少ない要因等について、活発な意見交換が行われました。



文部科学省大臣官房人事課長
藤江陽子氏

国立研究開発法人科学技術振興機構プログラム主管山村康子氏との意見交換

女性研究者研究活動支援事業（一般型）最終報告シンポジウム開催

平成28年11月9日

女性研究者研究活動支援事業（一般型）の最終報告シンポジウムを開催し、教職員、学生を始め、学内外から約120名が参加しました。

男女共同参画推進センター長藤岡伸子教授の司会進行のもと、鶴飼裕之学長の開会挨拶に続き、文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課人材政策推進室長 唐沢裕之氏より来賓挨拶として、文部科学省女性活躍関係の施策の説明と名工大の取組みへの期待が述べられました。次いで、岐阜大学副学長の林正子教授から、外部評価委員会委員長として、女性研究者支援に関する名工大学長のリーダーシップへの高い評価が述べられました。そして、「女性研究者の活躍による岐阜創生をめざして～岐阜大学による連携事業～」と題して岐阜大学の取組みと現状について講演されました。

中盤では、男女共同参画推進事業進捗報告として、乙部由子統括コーディネーターがこれまでの事業についての最終報告、女性研究者からの報告として昨年「女性が拓く工学の未来賞」を受賞した吉田奈央子准教授とOG人材バンクによる研究支援員を利用している武藤敦子准教授から、研究成果の報告と女性特有のライフイベントの問題について印象的なエピソードが語られました。

続いて、国立研究開発法人科学技術振興機構プログラム主幹 山村康子氏が「女性研究者支援、課題と継続について～名古屋工業大学への期待～」という演題で総括講演を行い、特に工科系単科大学である名工大への強い期待が述べられ、会場からは熱心な質疑がありました。

最後に、内匠理事が閉会の挨拶で、講演者、来場者への謝辞と次年度以降の取組の決意を述べました。



鶴飼学長の挨拶

文部科学省科学技術・学術政策局
人材政策課人材政策推進室長
唐沢裕之氏の挨拶

岐阜大学副学長 林正子氏の講演

ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾を開催 7月～10月 全8回

この養成塾は、本学が平成19年度から実施している「工場長養成塾」（経済産業省が平成17年度から実施する「産学連携製造中核人材育成事業」の1つとして採択）の成果を女性技術者育成に特化して活かそうという意図で開始したもので、昨年度に続き2期目の開催となりました。

本センターとイーブルなごや（名古屋市男女平等参画推進センター・女性会館）の指定管理者アイ・コニックグループが共同主催して、製造業で勤務する意欲的な女性技術者を対象にしたものです。

養成塾では、女性技術者がリーダーとして活躍するために必要なスキルを学ぶとともに、それぞれのキャリアデザインを考える機会となるよう、コンサルタントやものづくりにかかわる諸分野を専攻する本学教員による講座を開講しました。

今年度は17企業19人が参加しました。

この養成塾の特徴は、入塾式、卒塾式に上長の参加を求め、受講者の成長を見届けてもらうことにより、リーダーの養成をより効果あるものに行っていることです。

実施日	内容
平成28年7月12日	第1回 入塾式 オリエンテーション 特別講演～女性の力を経営に活かすには～ 「製造業における女性の活躍推進」 講師：新井みち子 三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社 コンサルタント 「多様性から広がる未来」 講師：金田千穂子 株式会社富士通研究所専任研究員
平成28年7月26日	第2回 1.自己紹介 キャリアデザイン講座1 「自己分析1～未来の私をイメージする～」 講師：市川麻波 2級キャリア・コンサルタント
平成28年8月9日	第3回 1.ロールモデルとの座談会 古田雅子 トヨタ紡織株式会社車室空間企画部 部長 大塚悦子 日本特殊陶業株式会社経営管理本部人事 人事企画課 寺谷直美 日本ガイシ株式会社研究開発本部 ZNBプロジェクト 2.キャリアデザイン講座2 「自己分析①～私らしく働き続けるためには～」 講師：市川麻波 2級キャリア・コンサルタント
平成28年8月30日	第4回 リーダー養成講座1 ～「品質」をテーマにものづくりマネジメントを考える～ 講師：仁科 健 名古屋工業大学大学院教授
平成28年9月13日	第5回 リーダー養成講座2 ～「ポカミス」をテーマにのづくりの安全を考える～ 講師：神田幸治 名古屋工業大学大学院准教授
平成28年9月27日	第6回 リーダー養成講座3 ～「心理」から現場のモチベーションアップを考える～ 講師：鷲見克典 名古屋工業大学大学院教授

平成28年10月11日

第7回 キャリアデザイン講座3
「キャリアプラン～リーダーとしての今日からの行動計画～」
講師：市川麻波 2級キャリア・コンサルタント

平成28年10月25日

第8回 卒塾式
報告会「リーダーとなるための行動宣言」
特別講演会「女性技術者への期待」
「ブラザー工業における女性活躍の取組みと期待」
講師：小池利和 ブラザー工業株式会社代表取締役社長
「互いを真に必要とする存在へ～企業での女性技術者活躍に向けて～」
講師：山和紀久子 トヨタ自動車株式会社
先進技術開発カンパニーグローバルデザイン企画部主幹
情報交換会

最終回は、名古屋工業大学が会場となり、卒塾式が行われました。塾長の本学男女共同参画推進センター長 藤岡伸子教授から、一人ひとりに修了証が授与され、その際、これまで学んだこと、今後職場でどのように活かしていくかを一人ひとりが行動宣言として述べました。

最後に情報交換会も開かれ、互いに親睦を深め、上席者も含めた出席者から、養成塾が有意義な機会になったという意見が多数聞かれました。

また、この養成塾は、全国女性会館協議会から、第10回「事業企画大賞」の「特別賞」を受賞しました。サービス業では女性管理職が増えている一方、未だ少数で管理職への登用が進んでいない製造業の理系女性を対象とした点や、地域の理系女性のネットワークづくりに貢献した点を評価されたものです。

参加企業

ブラザー工業株式会社 豊田合成株式会社 株式会社みどり技工 三重精機株式会社 株式会社竹代
株式会社マツバラ ホーユー株式会社 アビームシステムズ株式会社 協和工業株式会社 株式会社セキソー 有限会社サン樹脂加工 株式会社協伸精機 株式会社メタルヒート エイバックス株式会社 日本ガイシ株式会社



卒塾式

表彰・創設・認証等

「女性が拓く工学の未来賞」表彰 平成28年10月26日

平成26年度に特別褒賞として「女性が拓く工学の未来賞」を創設しました。

優れた研究業績を挙げることが期待される本学の若手女性研究者を表彰することにより、その研究意欲を高め、もって将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成を図り、本学の男女共同参画の推進に資することを目的としています。

今年度は、優秀賞に高井千加さん（先進セラミックス研究センター特任助教）、今野雅恵さん（オプトバイオテクノロジー研究センター研究員）の2名が選ばれ、10月26日に表彰式が行われました。高井特任助教は、中空粒子の大きさと構造制御の研究を進める中で、スケルトン構造のユニークなナノ粒子を発見しました。さらに、この粒子の持つガス透過・滞留性をガスセンサー等に应用する研究をしています。子育てを行い、自らの将来像を描きつつ、研究成果を精力的に論文発表して男女共同を維持する姿勢が評価されました。

今野研究員は、光駆動の陽イオンポンプの発見および新規作成に成功し、細胞膜の陽イオン透過機能の解析は今後の基礎研究および応用研究に強いインパクトを与えると期待されています。研究の中期的展望を持ち、個体への応用も見込む研究姿勢が評価されました。



高井特任助教（左から4人目）と今野研究員（左から3人目）

女性研究者メンター制度創設 平成28年7月29日

女性研究者には、研究や教育等の大学における業務上の問題に悩みが生じて、参考となる工学系女性研究者のロールモデルの数が少ないのが現状です。

そこで、悩める女性研究者（メンティ）に先輩教員（メンター）をマッチングし、先輩からの理解と共感、適切なアドバイス等を受けることにより、悩みや不安を軽減させ、研究や教育活動への意欲を高めて、女性研究者の意欲向上を支援するために制定したものです。

本学にはすでに、テニュアトラック若手教員を対象としたメンター制度が存在しますが、女性教員の育成に特化したメンター制度を新設したものです。メンターを希望する女性研究者の要請に基づいて、男女共同参画推進センターが本人の希望を聴取し、最終的には学長がメンターを指名します。

本学の女性研究者メンター制度は、女性研究者がライフイベント期にあっても本来の力を最大限発揮し、着実に上位職に昇進して後進のロールモデルとなりうるよう、見守り、支援することを目的として、包括的な「キャリア形成」についてのメンタリングに特に主眼を置いています。

メンター配置希望者 …… 2名

名古屋工業大学卒業生有志がOG会「鶴桜会（かくおうかい）」創設

平成28年11月3日（祝）

創立111周年を迎えた本年、卒業生の有志によるOG会を設立し、大学会館生協カフェテリアで設立総会兼懇親会を開催しました。OGや現役女子学生等、約50名が参加しました。

はじめに、男女共同参画推進センター長の藤岡教授から、OG会の創設協力にあたり、「年に1回会いましょう」を合言葉に、OGや現役女子学生が交流し、縦と横のつながりを持てる場となることを期待している旨の開会挨拶がありました。

続いて鶴岡学長やOG会を支援する一般社団法人名古屋工業会（全学同窓会）の水谷理事、内藤常務理事より挨拶があり、歓談が進みました。

続く設立総会では、役員・会則等が承認され、参加者の投票により名称を「鶴桜会」と決定しました。引き続き、OG全員の1分間スピーチが披露されるなど、参加者同士の親睦が進み、最後に藤岡教授からOG人材バンク（<http://www.nitech.ac.jp/gender/network/>）の紹介と、その輪をそれぞれが持つネットワークを通じて大きく広げてほしいとの挨拶で、1時間半にわたった会が盛況のうちに終了しました。

これまで数が少なく連携が難しかった女性卒業生の、ネットワークを強化し、彼女たちの社会での活躍を確かなものにする契機となることを期待されています。



藤岡センター長の挨拶



懇親会の様子

「あいち女性輝きカンパニー」認証 平成28年9月30日

愛知県から、「あいち女性輝きカンパニー」に認証されました

愛知県は、平成27年度から「女性の活躍企業の認証制度」を開始しました。この制度は、女性の活躍促進に向け、トップの意志表明や採用拡大等、ワークライフバランスの推進や働きながら育児・介護ができる環境づくりなどの取組を行っている企業等を「あいち女性輝きカンパニー」として愛知県が認証し、働く場における女性の「定着」と「活躍」の場の拡大を図るものです。

平成28年9月30日現在で、愛知県内の企業120社が認証を受けています。本学は、そのなかの大学では3校目、国公立大学としては、初めての認証になります。

また名工大は「あいちワークライフバランス推進運動」にも賛同しています。

イベント

トヨタ女性技術者育成基金奨学給付制度個別相談会開催 平成28年4月21日

この基金は平成27年度からトヨタグループが実施しており、対象者は、大学の工学系学部的女子新入生で、将来、製造業の女性エンジニアとしての活躍を目指す学生です。本学的女子学生にとっても、金銭的な心配がなく、将来の夢を持って学業にまい進できる制度であるという認識から、本学では、制度や申請についての説明会の他、中部地区の奨学金受給者（他大学の学生を含む）の交流会などの開催にも協力しています。これらの働きかけにより、平成27年度の本学受給者は、総受給者127人中38人、平成28年度の本学受給者は、総受給者125人中35人となることができました。

「理工系の魅力発信デー」開催 平成28年8月11日

本センター、本学女子学生団体「彩綾～SAYA～」と豊田市の共催で、理工系の魅力を発信するイベントを開催しました。小学生から大人まで496名の市民が参加しました。このイベントはモノづくり企業が集積する豊田市で将来理工系を目指し、企業等で活躍する女性が増えていくように主に女子中高生を対象に開催したものです。本学の学生による、学生生活や将来の夢についての発表をはじめワールドカフェ形式で一人ひとりの将来を考える意見交換会、質問コーナーを設けての進学相談などを企画し、理工系大学進学の魅力をアピールしました。また、小学生を対象に、科学を身近に感じてもらえるような“わくわく実験”（スライムづくり、酢と重曹の実験、スピーカー製作）も行いました。定員を上回る大盛況で参加者からはまた企画してほしいという声が多く聞かれました。



質問コーナー



意見交換会



わくわく実験

「女性技術者交流会」開催 平成29年1月20日

全学年の名工大女子学生を対象として、キャリアサポートオフィスとの共催で、女性技術者との交流会を二部制で行い、第一部では約40名、第二部では約40名が参加しました。

はじめに、キャリアサポートオフィス長の山下啓司教授から挨拶があり、次に男女共同参画推進センター長の藤岡伸子教授から、この交流会を機会にキャリアパスを見据えて頑張ってもらいたいとの激励の後、本学的女子学生からは、彩綾～SAYA～の活動に関する紹介がありました。

次に、SAYAの進行のもと、各企業の方より、会社説明と、各企業によるOGの女性技術者からは、自身のワンポイントPR、1日のスケジュール、キャリアパス等についてお話をいただきました。その後、座談会では、企業の方に各ブースへ着いていただき、学生たちが困り形で、進路選択の経緯や企業での育休・産休制度や、ワークライフバランスに関してなど女性ならではのリアルなお話、ざっくばらんな本音を伺うことができ、自身の将来をイメージする貴重な機会となりました。



交流会の様子

図書貸し出し

男女共同参画推進関連の図書の貸し出しを行っています。また独立行政法人国立女性会館の図書パッケージ貸し出しサービスを利用し3か月ごとに図書の入れ替えをしています。

◇場所

男女共同参画推進センター併設施設 11号館3階 (i-cafe内)

◇開室時間

平日9時～17時

◇蔵書

センター所有の蔵書と、国立女性教育会館パッケージサービス書籍

◇室内閲覧

図書は、11号館3階 (i-café内) にて、閲覧ができます。

◇貸出対象者

本学の学生及び教職員

貸出時には、学生は学生証が必要です。教職員は、学内便の利用ができます。(メールにて受付)

その他、本学における男女共同参画社会の推進を図るため、6月には内閣府が実施する男女共同参画週間に合わせ、附属図書館の一角に、「男女共同参画週間」コーナーを設け、学生及び教職員を対象に関係書籍の閲覧及び貸し出しを呼びかけました。また11月には「女性に対する暴力をなくす運動」実施期間に連動して、附属図書館にて、関連の書籍を展示し、貸し出しを呼びかけるとともに周知を図りました

*ポスターは社会工学科（建築・デザイン分野）の学生が制作



6/23～6/30 男女共同参画週間



11/12～11/25
女性に対する暴力をなくす運動

研究者ロールモデル集「ダイバーシティが工学の未来を拓く2017」発行

昨年の「工学の未来を拓く女性たち2016」に続き今年度は、本学で研究を続けている女性研究者と、配偶者が大学等の研究者である男性研究者を中心に、工学の魅力、研究やワークライフバランスについて掲載しました。



ニューズレター発行

年4回発行し、学内外へ配布してセンターの取組を紹介しています。



ウェブサイトでのアピール

名古屋工業大学のホームページから男女共同参画推進センターのホームページに入ることができます。本学の企画広報室と密に連絡を取り常に最新の情報提供を心掛けています。

文教ニュースへの掲載

本センターが開催したシンポジウムやセミナーなどについて文教速報や文教ニュースへの掲載を依頼し学外への周知を図っています。

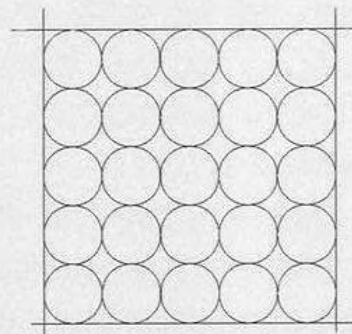
女性研究者研究活動支援事業（一般型）自己点検・評価報告

名古屋工業大学は、「文部科学省科学技術人材育成費補助事業 女性研究者研究活動支援事業（一般型）」の採択を受けた後、今年度が3年間の補助期間最終年度となりました。採択時に立てた取組目標の達成状況等を評価してもらったり、アドバイスをいただいたりする外部機関の有識者複数名が評価委員となる「自己点検・評価報告」を行いました。

はじめに藤岡伸子男女共同参画推進センター長からあいさつがあり、その後、乙部由子男女共同参画推進センター統括コーディネーターが、採択後から現在（平成28年10月下旬）までに実施した女性研究者支援に向けた取組を説明しました。説明の後、複数名の評価委員から、取組事業に対する質問があり、その質問に対して回答する傍ら、各評価員委員より、多くの有益なコメントをいただきました。そして、委員会で話した内容を踏まえた評価シートにコメントを記入していただき、後日、郵送してもらうことを約束しました。評価シートについては、総合評価、活動内容（取組内容、取組成果、実施体制）についてS、A、B、Cという4段階での評価軸としました。

有識者による評価について、総合評価としては「S」がもっとも多く、活動内容のなかの取組内容では「A」、取組成果では「A」、実施体制では「S」という評価がもっとも多かったです。それぞれの項目について自由記述欄を設けてあり、そこでの主な意見として、総合評価では、「女性研究者研究活動支援事業のファーストステップとして、課題となる各方面を網羅的にカバーした積極的な取り組みが展開されており、またその成果も顕著である。当初想定になかった対応も実施されており、トップのリーダーシップと共に、参加したメンバーの意気込みが感じられた」というものでした。ついで取組内容では、「女性研究者の採用数は多くないが着実に増加している」「学長自らが意識改革を呼びかけたことは、非常に効果的であり、女性教員不在学科解消という大きな成果が得られた。英語論文校正支援は、男性も対象としたところが効果的であり、男女共同参画を息長い取組としていくうえで重要と思われる。また、計画を上回るシンポジウム等の開催も大きな評価に値する」という意見でした。取組成果では、「交流サロンなど次世代育成も行っているが、もう少し広げてほしい」「ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾の創設および講座の実施は、企業との今後一層の連携においても多大の成果が挙がることと高く評価します」という記載内容でした。最後に、実施体制では「学長自らがリーダーシップを発揮され、人事部門等関連する部署を巻き込んだ学内横断的な推進体制は非常に効果的であった。協力教員を男女半数ずつ入れたことは、男性に疎外感を与えることなく、息長く取組を進める上で、重要な視点と思われる」というように、ほぼ本学の取組を高く評価する意見が多くみられました。有識者による貴重な意見を参考にして、来年度も事業を意欲的に継続実施していくこととします。

文責：国立大学法人 名古屋工業大学
男女共同参画推進センター
スタッフ 内山晃子



国立大学法人 名古屋工業大学
男女共同参画推進センター

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

TEL & FAX 052-735-5121

E-mail : danjokyodo@adm.nitech.ac.jp

URL : <http://www.nitech.ac.jp/gender/>